

2019 年度 A セメスター 報告書

文学部 社会学専修課程 3 年 鈴木奏

1. はじめに

私は 2019 年度秋学期からソウル大自由専攻学部留学している。留学開始後に 2020 年度春学期にも応募し留学期間を半年間延長したため、全体では 2020 年夏までの 1 年間の留学を予定している。この報告書は、留学期間の半分が経過した時点での振り返りと次の学期に向けての整理という位置づけとなっている。

留学のきっかけについては、直接的に自分の専攻が関係したり、2 外が韓国語だったりというわけではない。私の専攻は本郷の社会学で、2 年の A セメで専攻の勉強が少しずつはじまったときに、自分の中で卒論を意識するようになった。社会学の場合は専門分野が非常に広く、個々に興味があるテーマを見つける必要がある。そうなったとき、もともと K-pop に興味があったことや、不安定な日韓関係という状況から、「日本人」というアイデンティティやナショナリティについて漠然と考えるようになり、また、相手側について知るという意味で、韓国から見た日本というものにも興味がわき、韓国への留学を考えるようになった。私の専修の規定上、留学をすることで東大への在籍期間は 5 年間となるが、これといった大きなデメリットも思い当たらず、海外で学ぶという貴重な経験を積むことにより魅力を感じたため、留学を決めた。

さきほど書いたように、私は 2 外が韓国語でないため、多くの他のキャンパスアジアでの留学生と違い、韓国語の実力はほぼない状態だった。東大で 2 年 A セメから 3 外の韓国語初級を、3 年 S セメで中級を受講していたが、韓国人を前にしてはほぼ何も聞けず話せずの使えないレベルであった。そのため、はじめから正規の授業は英語で開講されている授業のみとり、韓国語は語学堂でみっちり鍛えようというつもりで履修を組んだ。語学学習については、4 章で詳しく言及している。

2. 留学にあたる手続き

手続きは 1 つ 1 つがそこまで複雑で難しいというわけではないが、キャンパスアジア事務局・東大で所属している部局・ソウル大(OIA・履修登録・寮・語学堂(通う人のみ))などそれぞれに別々で申請するものがあり、かつ海外渡航に必要なビザ・外国人登録などやることが多くどれも重要なため、きちんと整理して把握しなくてはならなかった。以下、時系列で行った申請を整理している。

4 月 キャンパスアジアへの応募@キャンパスアジア事務局

4,5 月頃 OIA(ソウル大の留学生担当部局)への留学申請@OIA

～6 月中 語学堂の申請(fall semester)@語学堂

6,7 月頃 ビザの手続き(パスポートは期限が十分なものを既に所持していたため手続きせず)

入寮に必要な健康診断書の作成@東大保険センター(英文で発行してくれる病院なら

他も可)

海外留学保険の手続き@キャンパスアジア事務局

文学部への留学書類の提出@文学部事務

社会学専修と担当教員への留学する旨の連絡@社会学研究室・担当教員

7月下旬 寮の申請@ソウル大の寮(OIA 通して)

8月上旬 履修登録@course registration system(OIA 通して)

9月 外国人登録(入国後 90 日以内)

9月下旬 キャンパスアジア留学 A セメスターに応募@キャンパスアジア事務局

11月 語学堂の申請(winter semester)@語学堂

留学延長手続き@OIA

12月 来学期の寮の申請@ソウル大の寮

1月 海外留学保険延長手続き@キャンパスアジア事務局

★語学堂の申請について

語学堂のホームページから申請。Fall semester と Spring semester は、交換留学生の場合割引を受けられる(多くは 50 パーセント)が、その割引を受けるには語学堂に登録するだけでなく、OIA にも申請する必要あり。授業料はクレジット決済可能だった。

★ビザ申請について

申請後に即日発行ではないので、早めに申請する必要あり。また、申請が平日の早い時間しかないため、スケジュールを事前に調整する必要があった。

★入寮のための健康診断書について

私は東大の保健センターで行ったため、証明書発行に時間を要したが、外の病院で行った場合は当日に発行してもらうこともできるそう。

★寮費の支払いについて

寮費はクレジット決済が不可能で海外送金が必要。私は三井住友銀行を通じて送金した。ソウル大の締め切り日に間に合うかどうか不安で直接メールを送って確認した結果、送金手続き完了の証明を写メで送ることで対応可能といわれ、そのように行った。

★履修登録について

ソウル大の履修登録は、東大の履修登録と大きく異なる。1 つ目は履修登録の時期。次の学期が始まる約 1 か月前に登録期間がある。2 つ目は、これがより重要で、早い者勝ちである点。朝 7 時が履修登録の時間なのだが、それよりも早く起きてパソコンの前で待機し、7 時になるや受講希望の科目を入力していくシステム。受講人数が埋まってしまうとその科目には申請できなくなる。わざわざ通信速度の速い P C バン(日本でいうネットカフェ)に行く学生もいるそう。

私の場合は、2 科目のみ、しかも英語で開講される授業だったためか、その競争に負けることなく登録できたが、数分のうちに枠は埋まっており衝撃を受けた。ただし、学期開始後にコー

スドロップの期間があるため、そこで席が空くのを待って登録するのも不可能ではないほか、」自分で先生に直接メールして留学生であることを伝えるなど、他の方法で履修することもできる。私はまだこのケースになったことはないが、次学期はそうなる可能性も覚悟している。

ただし全体として学生を見ていると、多めに(余裕をもって)受講申請し、あとから受けてみて減らすという傾向があるよう。逆に少なめに本当に受けたい授業だけ申請してあとから増やすのは難しいので、少しでも興味があるなら受講登録をすることがよい方法のようだ。

★外国人登録について

OIAを通して団体で申請する方法と、個人で出入国管理局に行く方法と2パターンどちらをえらんでもよい。ただし、個人で行く場合は事前の予約が必要で、その予約がかなり先まで埋まりやすいので注意が必要。本来外国人登録手続きには申請と指紋登録の計2回管理局に行く必要があるが、ソウル大の団体申請で行くと、指紋登録のみでよいいため1回行く回数を減らすことができる。

3. 留学生活

3-1. 生活用品

留学生活で非常に重要となるのが携帯電話の契約だが、私は「JK モバイル」という、韓国で日本人向けに携帯の契約を行っているところでSIM契約を行った。ソウル大の学生会館でも契約可能で、値段はJK モバイルと学生会館では大きくは変わらない。日本はGmailや友人同士ならLINE・LINE通話が中心だが、韓国では日本以上に携帯での通話やSMSを頻繁に利用する。そのため、携帯電話の番号を韓国で持つことは非常に重要である。

その他の生活用品(ハンガー、ゴミ箱、洗濯かご…)は、基本的にダイソーで購入した。韓国のダイソーは日本のダイソーとは異なる会社であり、100円(1000ウォン)均一ではなく1000ウォン~5000ウォンとなっている点は注意が必要だが、主に生活関連用品はここで入手可能である。ソウル大入口にもナクソンデ(落星台)(ナクソンデの方が大きい)にもダイソーがあり非常に便利である。

布団はダイソーにないため、少し大きめのマート(私はeマートで購入)に行って購入する必要がある。ただし、韓国は暖房が完備されていて、部屋の中で寒くて凍えるということはほとんどない。特に私の住んでいる915棟が一番新しい棟のため、暖房の威力も強く自分が暖房を付けずとも周囲の部屋がつけていると暑くて窓を開けるくらいであった。そのため布団といっても、薄めの布団1枚あれば十分だった。(布団は9月の頭に購入し、真冬も布団は追加せず。)

3-2. 寮

ソウル大はキャンパスの中に寮の一角があり、学部生寮・院生寮・家族寮・教員寮など非常に数が多い。しかし寮のエリアとして整備されており、生活空間として整っているため便利である。寮の近くには寄宿舍食堂と呼ばれる20時までは食堂として、20時以降は自習スペースとして開放される大部屋があり、それ以外にも外部の食堂がいくつかあるほか、カフェも2つほどある。コインレバンもあり、気軽に気分転換できるため、私は今学期何回か通った。(韓国の曲だけで

なく日本の曲もわりと入っている。)私は行ったことがないが、SNU hair という散髪室や、運動できるジムもある。

前述したように寮棟がたくさんあるのだが、同じ学部生寮でもいくつかパターンがあり、私はそのうち一番新しく建てられた Global Residence に住んでいる(2019 年度秋学期より利用開始)。ここは他の寮よりもやや寮費が高いという点がデメリットではあるものの、新しい寮のためエレベーター完備、全体的に清潔という点が優れているといえる。Global Residence には 1 人部屋×4(人)が 1 ユニットのタイプと 2 人部屋のタイプがあるが、私は 1 人部屋の方を選択した。このタイプはソウル大の寮のうち選択できる唯一のシングルルームで、就寝時間が早めである私にとっては、他学生の生活リズムをあまり気にせず生活できるという点がよかった。シングルルームではあるが、ユニット内での掃除の分担や共有物についてのルールを作るなどのためのやり取りの他、他の共有部屋で会ったときにも話すなど、完全に一人で交流がないというわけではない。むしろ、他の寮棟は韓国人がほとんどを占める一方で Global Residence の場合は外国人の割合が半数ほどを占めるため、韓国以外の国の人と知り合いになりやすい環境ともいえる。



左から、部屋の内部、部屋からの景色（6 階）、共用スペース（キッチンなどのあるラウンジ）

3-3. 友人関係

私は交換留学を 9 月に開始する以前に、8 月に 2 週間ほどある東大の本部国際交流課が主催するサマープログラムに参加していた。これは東大生とソウル大生と一緒に、前半の 1 週間ほどを東京で、後半の 1 週間ほどはソウルでプログラムに参加するもので、日中に歴史問題をはじめとする様々な授業を受けたり議論を行ったりし、夜には各自友達同士で観光するなどして親睦を深めるというような内容であった。ここで知り合ったソウル大の友人たちのおかげで、私は留学生活における不安や心細さの大半を感じずに日々を送ることができたと考えている。サマープログラムの時期には、ソウル大内で安くごはんを食べる方法やバスの乗り方、学生が使うアプリなど生活に役立つ情報をたくさん教えてもらった。しかしそれだけでなく、学期が開始してから継続して、ごはんに行ったり遊びに行ったり交流は続いており、私の留学生活における大事な出会いであったと考えている。

一方、それ以外の場面で韓国人の知り合いをつくるのはなかなか難しいといえる。私が今学期

英語で行う授業しかとらなかったため韓国人の比率が低めであるなど通常の授業との雰囲気の違いがあまり分からないのだが、総じて同じ授業を受けている学生と友人になる、という空気はあまりなかったと考えられる。それよりも、ソウル大の学生にとっては授業の単位と点数をととても深刻に考えるため、いかに省エネできちんと点数を取るかを重視しているようにも感じられた。

今学期ソウル大学の授業と並行して、平日は毎日(9時～13時)語学堂で韓国語の授業を受講した(授業の詳しい内容は4章参照)。クラスの友人は当然韓国人以外の外国人であり、彼らとは10週間毎日一緒に授業を受けるため、自然と友達になり、よく遊びにもでかけた。クリスマスや、韓国人は家族で過ごすソルラル(旧暦の正月)には1日一緒に遊んだりもした。ちなみに、語学堂のクラスは12人前後の構成で、私が通った Fall semester と Winter semester でのクラスには、日本人は1人(私のみ)、中国人が最も多く3～5人、他にはロシア人や、ベトナム・シンガポールなどの東南アジアから、イギリス・イタリアなどヨーロッパから、アフリカからなど、世界各地からの学生が来ている印象であった。彼らの多くは韓国の大学 or 大学院志望であり、そうでない場合はコリアンスタディーズに興味がある、韓国に親戚のルーツがあるなどのケースであった。年齢・国籍をとっても幅広いバックグラウンドをもつ学生たちに出会うことができ、普段からも話していて非常に面白かった。

サークルについて。ソウル大にも運動系・文化系・学術系など様々なサークルがあるが、私は秋学期が始まった当初韓国語がほとんど話せなかったことから、ソウル大生が韓国語でコミュニケーションをとるサークルに入るのは難しいと考え、ソウル大生がメインのサークルに入ることは断念した。しかし、たまたま受講していた授業で知り合った韓国人が、日本語を公用語として植民地に関する博物館などを一緒に訪れるサークルに所属しており誘われたので、その「みんなで行ってみよう会」というサークルに入った。そのサークルはソウル大のみに限らず、日本から韓国に留学している日本人や、日本語が話せる韓国人の学生などが所属している。今学期私は植民地歴史博物館、対共分室、ナムムの家を訪れた。一人でも行くことができる施設だが、サークルで行くことによって詳しく説明を聞かせていただいたり、体験した方のお話を直接伺えたりと、より貴重な経験ができた。同じく日本から留学している学生とも、同じように歴史問題に関心のある学生とも交流できる場であり、よいプラットフォームであると感じた。もう1つ、サークルではないが、所属したものとしては、ISF という名前の団体で、韓国語を留学生に週1回2時間半教えるというものがあり、そこに参加して韓国語を習っていた。そこは、有志のソウル大の学生が留学生に少人数規模で文法や会話を教えてくれるもので、気軽に質問もでき、少しでも韓国語を話す時間を確保したかった私にとってはありがたいプログラムであった。

東大からキャンパスアジアプログラムで留学している他の東大生とも学期中一緒にごはんに行くなど、関わりがあった。一緒に行った加藤さんは留学前から友人で、語学堂も私と同様に通っており、また履修に関して当初予期せぬトラブルなどがあったため、結果的にソウル大の授業も同じになった。そのため彼女とは一緒に過ごす時間が多かったといえる。一方、他の東大生ともばったりキャンパス内で会うことがあったほか、2, 3回ごはんに行ったりするなどした。それぞれ同じ大学に留学しているとはいえ、人によって異なる経験をしているので、その話を聞くのは非常に興味深かった。

3-4. 日常生活

まず、簡単に私が留学生活の中で格闘したものを2つ挙げると、「辛さ」と「寒さ」である。前者に関しては、辛いものが苦手といってなぜ韓国にわざわざ留学したのかという話なのだが、韓国に来て克服することができず、いまだに苦労している。基本的に食堂に行けば辛いメニューと辛くないメニューがあることが多いが、すべてが辛いメニューの日には、別の食堂に移動したりということもあった。食事の値段に関していえば、学生食堂のメニューは3000～4000ウォン程度(学生証の1000ウォン割引済みの額)で、日本よりも安く食べられる。外のレストランも、総じて日本のレストランよりも安く、食べ物に関して日本より物価は低めであると考えられる。

続いて「寒さ」であるが、これには断りが必要で、実はソウルの今シーズンの冬は明らかな暖冬であったそうである。例年ソウルでは1月が最も寒くなり最高気温でもマイナス10度近く下がり雪も積もるそうなのだが、今年の1月は最高気温が5～10度の日が多く、雪も2、3日ばかりつく日がある程度で、ほとんど積もらなかった。しかし、12月には最高気温が零下、最低気温がマイナス10度の日が何日もあり、雪国に暮らしたことのない私にとっては寒さに凍える日もあった。今考えると不要だった可能性もあるのだが、韓国でロングペディンを購入し、11月後半以降は毎日着用していた。

本節の最初に食べ物の物価が低いと書いたが、ここで交通についても触れる。ソウル市内なら地下鉄やバスは東京同様に張り巡らされており、不便を感じることはほとんどなかった。加えて東京よりも値段が明らかに安く、日本にいる時と違い、交通費の出費に苦しむこともほとんどなかった。安くなるメカニズムとして、まず初乗り運賃が地下鉄もバスも安いことがある。地下鉄なら1250ウォン(約125円)、バスなら1000ウォン(約100円)程度である。2点目に、移動距離に応じた追加料金制度があるものの、数十円程度のもので、遠距離を移動しても出費が大きくなることはない。さらに日本との大きな違いは、ほとんどの地下鉄と市内のバスで、乗換の際に初乗り運賃を取られることなく、乗換扱い(乗換の際に運賃がかからない or 数百ウォンのみの出費)にしてくれることである。

最後に、私の今学期の生活リズムについて簡単に書いておく。前述したとおり、私は平日の9時から13時は毎日(11月中・3週間の語学堂の休暇を除く)語学堂の授業を受けていた。ソウル大の授業は水・金の14時～15時15分と、木曜の15時～17時45分にあった。5章で後述するが、木曜の授業の課題が非常に多く、私はこれを処理するために、学期中は平日の夜・土日のかなりの時間をこの課題に割かなければならなかった。そのため、友人と過ごす時間をとるのが難しかったが、合間を縫って週に1、2回夜ご飯を食べに行くなどした。場所はほとんどが「シャロスギル」と呼ばれるソウル大入口駅周辺のごはん屋さん・カフェが集まるエリアで、そこで夜ご飯を食べたあとにカフェに行く、という韓国人学生スタイルでよく通った。

3-5. 大学の雰囲気

総じて、ソウル大の学生はとにかく熱心に勉強する。私も寮の自習できる学生食堂で勉強することが多かったのだが、そこで本当に夜の遅い時間まで勉強を続ける学生をたくさん見だし、図書館のフリースペースも午後は大体席が埋まっているなど、常に感心させられた。私の留学生活についても反省させられたほどである。しかし、こうした状況にはそのようにしなければ生き残

れない韓国社会の状況が反映されているようだ。ソウル大生に、彼らの勉強に対する一生懸命さに関心した、という話をする、シビヤな将来に対する準備段階としての学生生活が浮き上がってくる。韓国は大卒の就職率が60%程度、ソウル大生でも70%程度で、ソウル大への入学が職の保障にはならない。もっとも、地方なら求人が余っていることも往々にしてあるようだが、ソウル一極集中の韓国ではみながこぞってソウルしか希望しないようである。そうした競争社会にさらされた中で、少しでもアドバンテージを得るため、学生たちはよい成績を修めること、海外に留学すること、資格を得ることなどを重視する。3-3 友人関係の節で、ソウル大生が授業評価を重要視し、他人と協力するというより人より上に出ようとする姿と重なる。そうした姿勢が、就職率90%を超える日本社会における大学生の姿とのギャップとして、一生懸命に勉強に取り組むソウル大生、という像を浮かび上がらせるのかもしれない。ただし、もちろんこれは就職のためだけに大学に入って、就職のことしか考えていないというような意味ではなく、日本よりも将来に不安を感じ、就職に関してもシビヤに考えているようだ、ということである。

4. 留学中に受講した授業(韓国語@語学堂)

語学堂のコースはいくつか種類があるが、私は最もオーソドックスな10週間の正規過程を選択し、9月はじまりの秋学期と、12月はじまりの冬学期に通った。8月の末にプレイスメントテストを受け、秋学期は2級、冬学期は3級で受講した。ちなみに語学堂のレベルは、2級までは生活に最低限必要なレベル、3・4級は韓国人と韓国語ですっと会話できたくらいで、ネイティブが日常で使う表現を中心に学ぶ。5・6級は大学・院を目指す人のための級である。1クラスの人数は12人ほどで、先生は1週間で3人の先生が交代で担当する仕組みだった。

語学というのは独学することもできる分野だが、それでも語学堂に行くということについて私が感じるメリットは主に2つある。1つは独学するよりも明らかに上達が速いということだ。平日毎日4時間というのはわりと長い時間である。また授業ではReading, Listening, Speaking, Writingの4技能をバランスよく伸ばすように授業以外にもロールプレイやプレゼンテーションなどの課題が組まれている。そこそこの量の時間をつぎ込むことで、相当はやく実力は上げられたと考えている。2つ目は独学ではとりこぼしがちなSpeakingの能力をあげられるということである。授業は当然すべて韓国語で行われるので、必然的に自分が韓国語を使う時間は増えた。加えて、クラスの友達でよく授業外でも一緒にいる時間の多かった子たちが英語より韓国語が得意だったため、彼らと長い時間韓国語で話しているうちに、韓国語を話す際のハードルが下がった気がする。

この半年で語学堂の授業を受けた成果について簡単に触れておく。もともとは初級レベルの内容のみ学んでから行き、語学堂は2級からスタートした。ただし、できれば2020年度の春学期には韓国語で授業を受けたいという思いがあり、漢字語を中心に語彙を増やす努力はときどき行っていた。(積極的に漢字語である単語を記憶する、など。)自分の実力を一度はかっておきたいとの考えで1月半ばにTOPIKを受けてみたが、予想以上に点が伸び、6級に合格することができた。まだまだ韓国語の実力が足りないのは事実なのだが、語学は渡韓時よりはだいぶ伸びており、来学期は語学堂に通わない選択をした。



右側の建物が語学堂。11 月ごろはキャンパス内で紅葉狩りができるくらい美しい紅葉が見られた。

5. 留学中に受講した授業(韓国語以外)

今期は語学に力を入れることにしていたため、ソウル大の授業は2つのみ受講した。どちらも英語で行われる授業である。もともと1年間留学したいと考えており、最初の学期は韓国の近現代史や社会について学びたいという観点から次の2つの科目の履修を決めた。

① Two Koreas

朝鮮半島の近現代史についての授業。扱う範囲は日本の植民地時代～解放と分断～冷戦と朝鮮戦争～その後の朝鮮半島情勢についてであった。英語での授業のため、30人ほどの学生のうち留学生が半数程度だったと思う。中間は試験、期末はレポートで、課題として1人1回プレゼンをすることになっていて、私は日本の統治と“天皇”に関する認識の違いについて発表した。

近現代史については、日本の高校までの教育課程である程度のことは習っているため知っていることも多かったが、朝鮮半島からの目線ということで知らない知識が増えたり、新たな見方を得るということもあった。とくに、アメリカの韓国に与えた影響については日本であまり学んでいなかったため、深く知ることができた。逆に、私のプレゼン内で天皇について取り上げ日本での天皇認識について(戦争責任など)発表したのが、教授などからの反応も含めて、韓国との認識の違いについて改めて知る機会となり、印象的だった。



授業内のフィールドワークで訪れた、昌徳宮にて。

② Contemporary Korea

韓国社会についての授業で、前半では政治・経済の概念的なアプローチから学び、後半ではより具体的なテーマ別(K-pop、教育、DMZ、コピー品など)に韓国社会を見た。こちらも英語での授業のため、20人強の学生のうち過半数が留学生であった。中間も期末も、先生の質問に答える形式のレポートで、課題は1人1回のプレゼンと、毎週計50~60ページ分の英語の論文を読みA4サイズ2ページ分で要約・感想を書くことであった。

とくに学期の後半部分では個別の韓国社会に関するテーマの論文を読んだが、競争社会である韓国の教育についてや、韓国(や中国)で横行するコピー品の購入態度についてなど、今の韓国社会の事例を研究した論文を読めたことは面白かった。この授業ではより概念的な、政治体制・経済・アメリカとの関係などについても学んだ。政治や経済を専攻していないため私にとっては内容的にやや難しく深く理解できたとは言えない面もあるが、開発独裁や米軍による支援、米軍の駐屯、経済面のナショナリズムなど、現代の韓国においてキーとなる点について学べたことは意義深かったと思う。

6. 来学期にむけて

これまでの報告の中で述べてきたように、S セメスターでは語学に重点を置きつつ、韓国社会について学ぶという姿勢で取り組んできた。来学期は、もともとの志望動機である韓国から見た日本について知りたい、という目標に近づくため、韓国語で行われる授業を受けることにトライして、日本に関係した授業を中心に受講したいと考えている。また、ソウル大生の友人をあまり多く作ることが今学期はできなかったのも、来学期はサークルに入るなりして、韓国人の友人を増やせたら、とも思っている。韓国の博物館・歴史館なども行けていない場所はまだいくつもあるので、そうしたところにも足を運びながら、より韓国について深く学びながら、半年過ごしていきたい。